

令和4年度第1回庄内地域保健医療協議会（庄内地域医療構想調整会議）
議 事 概 要

日時：令和4年11月16日（水）18：30～19：55

場所：Web会議（山形県庄内総合支庁講堂）

1 開会

2 あいさつ（庄内総合支庁 渡辺保健福祉環境部長）

3 議題

（1）今後の地域医療構想の進め方について

事務局から資料1により説明

- 主な意見・質疑等
特になし

（2）今後の医療提供体制のあり方について

「庄内二次医療圏における医療提供体制の現状と課題」

山形大学大学院医学系研究科 医療政策学講座教授 村上正泰氏

（山形県地域医療構想アドバイザー）

村上教授から資料2により説明

- 主な意見・質疑等

【地域の医師の高齢化と在宅医療について】

- ・ 地域の医師の高齢化が進む中、在宅医療を開業医だけがやる時代ではなく
なっているのではないかと考えているがどうか。

⇒（村上教授）

- ・ 同感する。開業医の診療所で在宅医療を担っていくことも引き続き重要な要素だが、一人の医師が様々な機能や対応を担っていくのは、開業医の減少や高齢化を考えるとなかなか難しい。
- ・ 診療所単体ではなく、診療所がグループ化したり、中小規模の病院を中心としたある程度のネットワークに診療所など開業医が加わって機能を確保していくことも必要ではないかと思う。
- ・ 県全体でも診療所で勤務している医師の数が減っており、その中で高齢化が進んでいる状況なので、診療所だけではなく病院も含めた在宅医療の体制を整備していく必要があると思う。

【急性期から在宅への移行について】

- ・ 急性期から回復期を経て在宅に至るまでの間、入院で見ていかなければならない方がいても、地域包括ケアでは上限が60日となっており、心不全患者など療養病棟、一般急性期での療養が医療区分、平均在院日数の絡みから保険診療上困難な場合が多くあるが、入院での療養場所をどのように確保すべきか意見を伺いたい。

⇒（村上教授）

- ・ 診療報酬との兼ね合いもあるので地域包括ケア病棟で全て担うということではないと思う。入院期間を長くできないということもあり難しい部分はあると思うが、機会があれば、その辺の話もさせていただきたいと思う。

【在宅医療の強化について】

- ・ 高齢化による医療ニーズの変化は、2025年の病床機能においても重要なポイントになってくると思う。入院期間が長期化すると病院の経営に影響することも含め、在宅医療の受け皿や訪問看護の強化を考えていかないといけない。在宅の体制を同時に考えないと、疾患ベースで分担を考えているだけでは解決できない問題が増えてくるので、一緒に考えながら進めていかないと強くと感じた。

（3）その他

特になし

4 その他

（1）令和4年度山形県在宅医療提供体制確保事業費補助金のご案内

県健康福祉部医療政策課から資料3により説明

○ 主な意見・質疑等

- ・ コロナ対応として、訪問看護ステーションのネットワークが必要になると思っており、対応する事業所を増やしていかなければならない中で非常にありがたい事業だと思う。

【以上、19：55終了】